

# 公益財団法人京都市障害者スポーツ協会

## 第1 法人の概要

### 1 代表者

理事長 芝田徳造

### 2 所在地

京都市左京区高野玉岡町5番地

### 3 電話番号

075-702-3370

### 4 ホームページアドレス

<http://www.kyoto-syospo.or.jp/>

### 5 設立年月日

昭和63年4月1日

### 6 基本財産

25,000千円（うち本市出えん額 25,000千円，出えん率 100.0%）

### 7 事業目的

京都市における障害のある人のスポーツの振興と健康の増進を図り，社会参加を促すとともに，障害のない人との共生社会の実現に努め，もって福祉の向上に寄与することを目的とする。

### 8 業務内容

- (1) 障害のある人のスポーツの振興事業
- (2) 障害のある人の健康の維持・増進に関する事業
- (3) 障害のある人の文化・レクリエーションの振興事業
- (4) 障害のある人への理解を進めるための事業
- (5) 障害者スポーツ施設等の運営事業
- (6) その他，この法人の目的を達成するために必要な事業

### 9 所管部局

保健福祉局障害保健福祉推進室（TEL075-222-4161）

### 10 役員名等

#### (1) 理事長

芝田徳造

#### (2) 常務理事

北山俊二

#### (3) 理事

内田寛治，水谷裕，前田定幸，野地芳雄，日野勝，直野信之，森田美千代

瀬川彰（文化市民局スポーツ担当局長）， 齊藤泰樹（保健福祉局障害保健福祉推進室長）

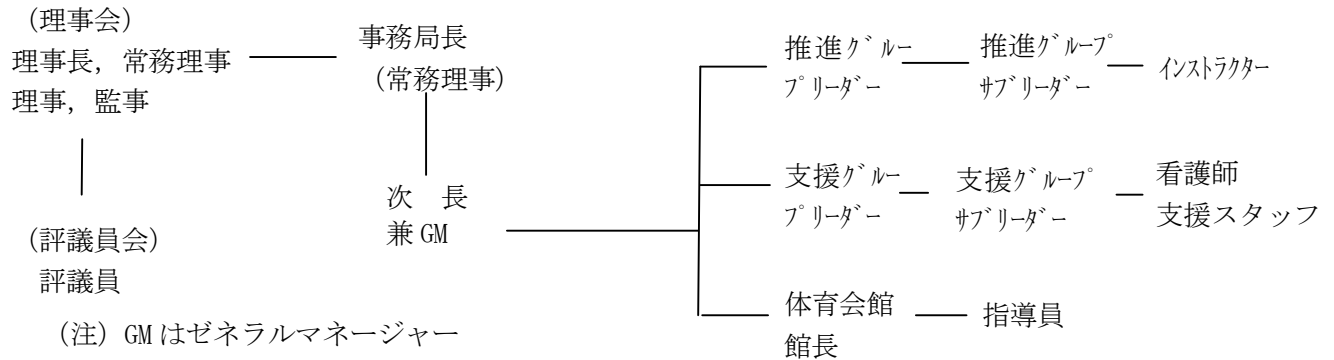
#### (4) 監事

堀村不器雄，壁純一郎，東美佐枝（保健福祉局障害保健福祉推進室社会参加推進課長）

### 11 常勤職員数

19人（うち本市派遣職員0人）

## 12 組織機構



## 第2 経営状況

### 1 平成 27 年度決算

#### (1) 事業報告

##### ア 障害のある人のスポーツの振興事業

##### (ア) 教室等開催事業

- a 京都市障害者スポーツセンター（以下：センター）  
（全 35 事業， 307 回， 延べ 3,607 人参加）
- b 京都市障害者教養文化・体育会館（以下：体育会館）  
（全 3 事業， 12 回， 延べ 146 人参加）

##### (イ) スポーツ大会等開催事業

- a センター（全 11 事業， 延べ 2,099 人参加）
- b 体育会館（全 2 事業， 延べ 49 人参加）

##### (ウ) 各種スポーツ体験会・つどい等の開催事業

- a センター（全 8 事業， 71 回， 延べ 888 人参加）
- b 体育会館（全 4 事業， 29 回， 延べ 544 人参加）

##### (エ) 講習会等開催事業

- a 講習会
  - (a) センター（全 3 事業， 延べ 98 人参加）
  - (b) 体育会館（全 1 事業， 延べ 7 人参加）
- b 登録ボランティアのための研修会
  - (a) センター（全 6 回， 延べ 75 人参加）
  - (b) 体育会館（全 1 回， 延べ 6 人参加）

##### (オ) 地域でのスポーツ振興事業（センター・体育会館）（全 12 施設， 105 回）

##### (カ) 大会等への派遣事業（センター・体育会館）

##### a 資格取得のための派遣

日本赤十字社救急法救急員（1 人），日本赤十字社救急法救急員更新講習会（2 人），  
中級障がい者スポーツ指導員（1 人），手話検定 3 級（1 人），ハロウィック水泳法講習会基  
礎コース（1 人）

##### b 第 39 回日本障害者体育・スポーツ研究会への発表者の派遣（1 人）

##### c 第 15 回全国障害者スポーツ大会（紀の国わかやま大会）への役員派遣（3 人）

##### d 第 15 回全国障害者スポーツ大会（紀の国わかやま大会）への視察等（2 人）

##### e 第 35 回全京都障害者総合スポーツ大会開閉会式への派遣（2 人）

（卓球バレー大会・卓球大会・水泳大会・陸上大会・アーチェリー大会・フライングデ  
ィスク大会）

##### f 第 11 回精神障害者バレーボール京都市大会「京（みやこ）ふれあいアタック」 「全 国障害者スポーツ大会京都市予選会」への監督としての派遣（1 人）

- g 第 15 回全国障害者スポーツ大会近畿地区予選会精神障害者バレーボール競技京都市代表チームへの監督としての派遣 (1 人)
  - h 全日本シッティングバレーボール女子チームへのコーチ就任及び強化合宿への派遣 (1 人)
  - i 2015 第 17 回ポーランド・エルブロングカップ大会へのシッティングバレーボール女子チームへのコーチとしての派遣 (1 人)
  - j インターコンチネンタル大会へのシッティングバレーボール女子チームへのコーチとしての派遣 (1 人)
  - k 第 22 回中部障がい者水泳選手権大会への役員派遣 (1 人)
  - l IPC Swimming 世界選手権グラスゴー大会への役員派遣 (1 人)
  - m 全国高等学校総合体育大会水泳競技大会競泳・飛込競技への役員派遣 (1 人)
  - n 2015 ジャパンパラ水泳競技大会への役員派遣 (1 人)
  - o マルハンカップ第 21 回日本電動車椅子サッカー選手権大会への役員派遣 (1 人)
  - p 第 32 回日本身体障がい者水泳選手権大会への役員派遣 (1 人)
  - q 日本身体障がい者水泳連盟指導者研修会への講師派遣 (1 人)
  - r 春季静岡水泳記録会への役員派遣 (1 人)
  - s 全国車いす駅伝競走大会開閉会式への役員派遣 (1 人)
  - t 第 44 回京都市聴覚言語障害者スポーツ大会への派遣 (1 人)
  - u 第 13 回京都障害者チャンピオン卓球大会への派遣 (1 人)
  - v 京都市立総合支援学校スポーツ交歓会への派遣 (1 人)
  - w 日本身体障がい者水泳連盟東京 2020 強化推進委員会への派遣 (1 人)
  - x 中級障がい者スポーツ指導員養成講習会への講師派遣 (1 人)
  - y 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会技術委員会 (全国障害者スポーツ大会班) 会議への派遣 (1 人)
  - z 春季静岡水泳記録会兼リオ・デ・ジャネイロパラリンピック派遣選手選考会事前打ち合わせ会議への派遣 (1 人)
  - aa ~2020 東京オリンピック・パラリンピック・ムーブメント~平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」京都府立綾部高等学校水泳交流会への講師派遣 (1 人)
- イ 障害のある人の健康の維持・増進に関する事業
- (ア) 健康のための運動指導事業
    - a センター (全 16 事業, 224 回, 延べ 7,365 人参加)
    - b 体育会館 (全 3 事業, 51 回, 延べ 433 人参加)
  - (イ) 相談事業
    - a 医師によるスポーツ医事相談 (センター) (38 件)
    - b 理学療法士によるスポーツ医事相談
      - (a) センター (30 件)
      - (b) 体育会館 (25 件)
    - c 職員による新規面談及び新規指導
      - (a) センター (個人面談 470 人)
      - (b) 体育会館 (個人面談 47 人)
- ウ 障害のある人の文化・レクリエーションの振興事業
- (ア) 文化教室等開催事業
    - a センター (全 19 事業, 121 回, 延べ 1,917 人参加)
    - b 体育会館 (全 7 事業, 59 回, 延べ 685 人参加)
  - (イ) レクリエーション教室等開催事業
    - a センター (全 16 事業, 129 回, 延べ 3,011 人参加)

- b 体育会館（全5事業，105回，延べ3,523人参加）
- エ 障害のある人への理解を進めるための事業
  - (ア) イベント等開催事業
    - a センター（全4事業，延べ7,492人参加）
    - b 体育会館（全1事業，延べ68人参加）
  - (イ) 交流事業
    - a センター（全4事業，22回，延べ751人参加）
    - b 体育会館（全1事業，1回，延べ167人参加）
  - (ウ) 啓発事業（センター）
    - a 実習，職場体験学習等の受入れ（延べ2人）
    - b 見学等の受入れ（全14件，延べ272人）
    - c 他団体からの依頼による館内での指導（全8団体）
- オ 障害者スポーツ施設等の運営事業
  - (ア) 施設管理事業
    - a センター
 

日本赤十字社救急法救急員講習会への派遣（1人），日本赤十字社救急法救急員更新講習会への派遣（2人），中型免許（一種）の取得（1人），スポーツ教室等の指導マニュアルの策定，スポーツセンター利用に係る業務，手話研修（24回），点字研修（20回），総合消防訓練（2回），心肺蘇生法個人練習（月3回×12か月），救急法等安全管理のための研修（43回），安全運転管理者講習への派遣（2人），コンプライアンスの推進，京都労働健康管理会への派遣（1人），第32回障害者スポーツセンター協議会への派遣（1人），外郭団体におけるコンプライアンス推進対策会議への派遣（1人），全国公益法人協会の実施する研修会への派遣（2人），外郭団体実務講習会への派遣（2人），社会福祉法人福利厚生センターの実施する研修会（広報，接遇，レクリエーションリーダー）への派遣（3人），公益財団法人日本障がい者スポーツ協会創立50周年記念式典出席（1人），平成27年度障がい者スポーツ協会・指導者協議会合同協議会への派遣（1人），平成27年度障がい者スポーツ近畿ブロック連絡協議会への派遣（1人），図書室の運営（延べ2,722人利用），疾病への対応（病気によるもの49件，怪我によるもの46件）
    - b 体育会館
 

体育会館利用に係る業務，手話検定（3級）への派遣（1人），安全運転管理者講習への派遣（1人），コンプライアンスの推進，総合消防訓練（1回），心肺蘇生法個人練習（月3回×12か月），疾病への対応（病気によるもの4件，怪我によるもの7件）
  - (イ) 施設整備事業
    - a センター
      - (a) 必要な施設・設備・備品等の改修（1件） ※1件50万円以上のもの
      - (b) 必要な備品の調達（3件） ※1件20万円以上のもの
      - (c) 環境マネジメントシステム KES の継続改善実施
    - b 体育会館
      - (a) 必要な施設・設備・備品等の改修（1件） ※1件50万円以上のもの
      - (b) 必要な備品の調達（2件） ※1件20万円以上のもの
      - (c) 環境マネジメントシステム KES の取得
  - (ウ) 便宜供与事業
    - a センター
      - (a) 定期送迎バスの運行（総運行日数280日／年間，延べ5,374人利用）
      - (b) 申請による送迎バスの運行（全3団体，延べ46人利用）
    - b 体育会館
 

定期送迎バスの運行（総運行日数306日，延べ1,211人利用）

(エ) 宣伝事業

- a センター機関紙発行（全5回、各2,000部）
  - b 体育会館機関紙発行（全5回、各1,500部）
  - c 平成26年度事業概要(年報)の発行（1回、500部）
  - d ホームページによる情報発信
    - (a) センター（アクセス数236,810件／年間）
    - (b) 体育会館（アクセス数8,820件／年間）
  - e センター利用カレンダーの配布
  - f センター近隣の清掃・美化活動
    - (a) センター（220日実施）
    - (b) 体育会館（12日実施）
- カ そのほか、この法人の目的を達成するために必要な事業
- (ア) センターにおける物品販売事業（水着、水泳帽等）
  - (イ) 体育会館における施設貸与事業

## (2) 財務諸表

貸借対照表  
平成28年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	76,802	78,152	△ 1,350
未収金	899	1,558	△ 658
前払金	83	109	△ 25
仮払金	557	0	557
繰越商品	222	145	76
流動資産合計	[78,563]	[79,963]	[△ 1,401]
2. 固定資産			
(基本財産)			
投資有価証券	25,000	25,000	0
基本財産合計	(25,000)	(25,000)	(0)
(特定資産)			
減価償却引当資産	28,947	26,345	2,602
特別修繕引当資産	60,493	60,493	0
事業平準化積立資産	34,000	34,000	0
体育会館運営引当資産	7,955	5,360	2,595
体育会館整備引当資産	17,000	13,000	4,000
共済会退職給与預け金	19,302	23,484	△ 4,183
特定資産合計	(167,696)	(162,682)	(5,014)
(その他固定資産)			
構築物	117	155	△ 39
車両運搬具	6,322	8,951	△ 2,629
什器備品	4,786	2,240	2,546
ソフトウェア	966	1,363	△ 396
電話加入権	75	75	0
その他固定資産合計	(12,266)	(12,785)	(△ 519)
固定資産合計	[204,962]	[200,467]	[4,496]
資産合計	283,525	280,430	3,095
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	6,268	9,096	△ 2,828
預り金	1,037	871	166
賞与引当金	7,493	8,089	△ 596
流動負債合計	[14,798]	[18,056]	[△ 3,258]
2. 固定負債			
共済会退職給付引当金	19,302	27,436	△ 8,135
固定負債合計	[19,302]	[27,436]	[△ 8,135]
負債合計	34,100	45,493	△ 11,393
<b>III. 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
京都市出えん金	25,000	25,000	0
受贈車両運搬具	782	986	△ 204
受贈什器備品	0	53	△ 53
指定正味財産合計	[25,782]	[26,039]	[△ 257]
(うち基本財産への充当額)	(25,000)	(25,000)	(0)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	[223,643]	[208,898]	[14,745]
(うち特定財産への充当額)	(148,395)	(139,198)	(9,197)
正味財産合計	249,425	234,937	14,488
負債及び正味財産合計	283,525	280,430	3,095

正味財産増減計算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	262	262	0
特定資産運用益	52	44	9
事業収益	239,485	238,797	688
受取助成金	919	963	△ 44
雑収益	6,175	817	5,358
経常収益計	246,894	240,883	6,011
(2) 経常費用			
事業費	227,550	232,658	△ 5,108
管理費	4,594	4,895	△ 301
経常費用計	232,145	237,553	△ 5,409
当期経常増減額	14,749	3,329	11,420
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
車両運搬具除却損	0	0	0
什器備品除却損	4	0	4
経常外費用計	4	0	4
当期経常外増減額	△ 4	0	△ 4
当期一般正味財産増減額	14,745	3,329	11,416
一般正味財産期首残高	208,898	205,569	3,329
一般正味財産期末残高	223,643	208,898	14,745
II. 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	262	262	0
受取助成金	0	1,020	△ 1,020
一般正味財産への振替額	△ 520	△ 469	△ 51
当期指定正味財産増減額	△ 257	814	△ 1,071
指定正味財産期首残高	26,039	25,226	814
指定正味財産期末残高	25,782	26,039	△ 257
III. 正味財産期末残高	249,425	234,937	14,488

## 2 平成 28 年度事業計画

### (1) 事業計画の概要

#### ア 障害のある人のスポーツの振興事業

##### (ア) 教室等開催事業

- a 京都市障害者スポーツセンター（以下：センター）（全 35 事業，291 回）
- b 京都市障害者教養文化・体育会館（以下：体育会館）（全 4 事業，16 回）

##### (イ) スポーツ大会等開催事業（センター・体育会館）（全 12 事業）

##### (ウ) 各種スポーツ体験会・つどい等開催事業

- a センター・体育会館（全 2 事業）
- b センター（全 6 事業，47 回）
- c 体育会館（全 2 事業，26 回）

##### (エ) 講習会等開催事業

- a センター（全 4 事業，15 回）
- b 体育会館（全 3 事業，5 回）

##### (オ) 地域でのスポーツ振興事業（センター・体育会館） 施設へのスポーツ指導のための職員派遣（全 5 施設）

##### (カ) 大会等への派遣事業（センター・体育会館）

#### イ 障害のある人の健康の維持・増進に関する事業

##### (ア) 健康のための運動指導事業

- a センター（全 15 事業，174 回）
- b 体育会館（全 3 事業，39 回）

##### (イ) 相談事業

- a センター  
医師，理学療法士によるスポーツ医事相談（全 48 回）
- b 体育会館  
理学療法士によるスポーツ医事相談（全 24 回）

#### ウ 障害のある人の文化・レクリエーションの振興事業

##### (ア) 文化教室等開催事業

- a センター（全 16 事業，85 回）
- b 体育会館（全 9 事業，65 回）

##### (イ) レクリエーション教室等開催事業

- a センター・体育会館（全 1 事業，2 回）
- b センター（全 16 事業，126 回）
- c 体育会館（全 3 事業，103 回）

#### エ 障害のある人への理解を進めるための事業

##### (ア) イベント等開催事業（センター・体育会館）（全 5 事業）

##### (イ) 交流事業

- a センター（全 4 事業，22 回）
- b 体育会館（全 1 事業）

##### (ウ) 啓発事業（実習及び見学等の受入れ）

#### オ 障害者スポーツ施設の運営事業

##### (ア) 施設管理事業（センター・体育会館）

- a スポーツセンター利用に係る業務
- b 安全管理マニュアルの策定
- c 救急法，手話，点字，総合消防訓練，その他外部への講習会や研修会への派遣
- d 図書室の運営
- e コンプライアンスの推進



- (イ) 施設整備事業（センター・体育会館）
    - a 必要な施設の改修
    - b 必要な備品の調達
    - c 環境マネジメントシステム KES の継続改善
  - (ウ) 便宜供与事業（センター・体育会館） 送迎バスの運行
  - (エ) 宣伝事業（センター・体育会館）
    - a 機関紙の発行
    - b 事業概要の発行
    - c ホームページの運営
    - d 利用カレンダーの作成
- カ そのほか、この法人の目的を達成するために必要な事業
- (ア) センターにおける物品販売事業
  - (イ) 体育会館における施設貸与事業

## (2) 予算

正味財産増減予算書  
平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	263	263	0
特定資産運用益	50	50	0
事業収益	254,687	238,937	15,750
受取助成金	875	923	△ 48
雑収益	680	680	0
経常収益計	256,555	240,853	15,702
(2) 経常費用			
事業費	264,437	240,618	23,819
管理費	5,526	5,065	461
経常費用計	269,963	245,683	24,280
当期経常増減額	△ 13,408	△ 4,830	△ 8,578
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 13,408	△ 4,830	△ 8,578
一般正味財産期首残高	208,898	205,569	3,329
一般正味財産期末残高	195,490	200,739	△ 5,249
II. 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	263	263	0
一般正味財産への振替額	△ 467	△ 521	54
当期指定正味財産増減額	△ 204	△ 258	54
指定正味財産期首残高	26,039	25,226	814
指定正味財産期末残高	25,835	24,968	868
III. 正味財産期末残高	221,325	225,706	△ 4,381

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H25 (決算)	H26 (決算)	H27 (決算)	H28 (予算)
正味財産増減計算書	経常収益	238,262	240,883	246,894	256,555
	当期経常増減額	1,968	3,329	14,749	△13,408
	当期正味財産増減額	1,578	4,143	14,488	△13,612
貸借対照表	総資産	270,968	280,430	283,525	
	総負債	40,173	45,493	34,100	
	正味財産	230,794	234,937	249,425	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H25 (決算)	H26 (決算)	H27 (決算)	H28 (予算)
委託料	京都市障害者スポーツセンター管理運営委託 (指定管理)	206,200 (※)	208,364 (※)	208,364 (※)	208,364 (※)
	京都市障害者教養文化・体育会館管理運営委託 (指定管理)	21,077 (※)	21,679 (※)	21,595 (※)	21,595 (※)

(※) 一部利用料金制

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度は、単年度黒字を維持しており健全な財務状況にある。今後も気を緩めることなく支出の削減に努めていく必要がある。</li> </ul>
事業面	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度まで実施してきた事業等を更に充実させるとともに、新規事業にも取り組み、障害者スポーツセンター及び障害者教養文化・体育会館の両施設における利用者数の目標である年間20万人を達成した。</li> <li>障害者スポーツセンターでは、平成28年度及び平成32年開催のパラリンピックに向けて大会種目の教室を継続的に実施する等、選手の発掘、育成を進めた。また、利用者の要望に応じて設備の充実を図る等、利用者の満足を高めるよう努めた。</li> <li>障害者教養文化・体育会館では、新規事業の「スプリングフェスティバル」を含め、多種多様な事業を実施し、障害のある人、介助者及びボランティアの利用者数が前年度比31.2%の増となった。</li> </ul>

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none"> <li>光熱水費等の経費削減等により、当期正味財産増減額の黒字幅が拡大した。継続して黒字を続けており、財務面で特に問題はない。</li> </ul>
事業面	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数の拡大など、業務面での実績も好調である。引き続き利用者ニーズの把握に努め、利用の拡大を図ってほしい。</li> </ul>